



414
A/125
19



第九十一号
三枚

千八百七十四年十月廿二日
ジャバシ、ハ
ル、新聞抄訳

トノ紛紜決着セサル間ハ支那人ヨリ我輩ニ向
ク何事ヲモ報告セサルカ如ク又地方官吏ノ兵
器ノ買収及ク防禦ノ設備ヲ為スヲ弛メシニ因
リ以テ考フル時ハ臺灣ノ難事既ニ決着シタル
カ如シ然レ氏其決着ノ約定ニ付キ支那人ヨリ
日本人ニ出兵ノ費用ヲ償フタルヤ又ハ日本人

大正十一年四月
候番郵
見



交戦費用、夥多ニシテ其財庫、罄虚ナルヘキ
ヲ恐レ支那人ノ将来臺灣生蕃ヲ統制スヘキ虚
約ヲ顧ミテ其需要スル所ヲ棄テタルヤ余等未
タ之ヲ知ル能ハス抑々去年日本使節副島ノ北
京ニ来リシ時支那政府ハ生蕃懲罰、為ノ臺灣
ニ兵ヲ送ラント欲シ稍々其兵ヲ聚合スルノ處
置ヲ為セシカ現ニ何事ヲモ為サス具終ニテ事
止ミタリ然ルニ三ヶ月以來、動搖ノ後今ニ至
テ更ニ実功ヲ奏スヘキ事ヲ為シ得ヘキハ頗ル
疑ハシ蓋シ臺灣ニ在ル支那ノ兵卒及ヒ運送船

ハ頗ル夥多ナルニ因リ獨リ生蕃ヲ討スルニ足
ルヘキノミナラス亦日本人ヲ逐弁スルニ足ル
可ク然ルニ支那官吏ノ因循ニシテ其兵士ニ報
國志ノアラサルヨリ三四月以來、夥多ノ費用
ハ終ニ何等ノ効ヲモ生マサル可ク又愈々交戦
ニ及フ^{△セ}支^{△セ}那^{△セ}士^{△セ}官^{△セ}ノ^{△セ}敵^{△セ}テ^{△セ}カ^{△セ}戦^{△セ}ト
セサル可キハ其預備ヲ為スノ虚浮ナルニ就キ
以テ之ヲ觀ル可シ例ヘハ支那人ノ一士官出帆
ノ吉日ヲ擇ム為メ十日間徒ラニ運送船ヲ待タ
シメ其漸ク蒸氣ヲ染レテ解纜スルニ及ヒ僅カ
ニ數百ヤードヲ進ミテ自今ニ碇泊セシメタル

カ如キハ其愚ヲ解スルニ足ル可ク然ラ支那人
ノ兵ヲ出ス仕方ハ皆斯クノ如シ故ニ日本若シ
永ク臺灣ニ留マラント欲セハ斯クノ如キ兵法
ヲ以テ之ヲ逐作スル能ハサル可キナリ然レ氏
日本刊行ノ諸新聞紙ニ就キ以テ之ヲ觀ル時ハ
日本ハ漸々軍費ノ夥多ナルヲ覺ヘ其政府生蕃
討伐ヨリモ更ニ確乎タル主目ヲ以テ猛烈ニ戦
フノ備ヲ為スニ非レハ速カニ其兵ヲ退クルニ
至ル可シ蓋シ交際上ノ談判ハ其費ヲ要スル下
現ニ交戦スルト幾ント異ナラヌ而メ支那ハ日

本ニ比スレハ其囊中更ニ豊カナルニ因リ交際
上ノ談判長キ時ハ次第ニ日本ノ不利タル可シ
方今ニ至ル迄日本大臣大久保閣下ト總理衙門
トノ談判進歩セシ模様ハ北京ヨリ未タ其報ヲ
得ルナシ

嘗テ大久保閣下ト共ニ北京ニ赴キミアドシラ
ル由藤ハ九月二十八日天津ニ歸レリト虽モ
談判ニ就テ新報ハ未タ達シメルヲ知ラス蓋

レ兩三日以前北京ヨリ当地ニ着セシ人ノ談ニ
ニ日本欽差及ニ其附属ノ官吏ト總理衙門ノ大
臣トヲ除クノ外ハ外國公使モ北京在留ノ外國
人モ大久保ト總理衙門ノ談判ノ模様ヲ知ル者
ナレト云々又日支双方共ニ互ニ詭欺ノ術策ヲ
用ヒタリト思ハル、由ラ云ヘリ蓋シ余カ説ニ
ハアドヒラレル伊藤ノ歸リタルハ談判ノ意ノ
如クナラサルニ因リ同氏太沽ニ於テ船ヲ用意
シ何時ニテモ使節ヲ日本へ護送スルニ備ヘシ
カ為メナル可シ

詠 箕原権内史